

環境会計

当社では、効率的な環境保全活動の実施と、取り組み状況の透明性を高めることを目的として、「環境会計」を実施しています。

当社は、地球温暖化をはじめとする環境問題に取り組んでいます。2014年度は、革新的省エネの一環として、蒸気再圧縮 (VRC) 技術の実証設備の設置や廃タイヤなどリサイクル燃料でも良好な燃焼結果が得られる新たな自家発電用循環流動層ボイラーの設置着手など、地球環境保全に向けて3,094百万円の投資を行いました。環境投資の総額は、前年比の約4倍、3,262百万円に増加しました。

今後も、環境保全対策を着実に進めていきます。

物量に関する環境保全効果については「環境保全」[ダイセルグループCSR報告書2015詳細報告] (<http://www.daicel.com/csr/library.html>)、ならびに「環境保全」[ダイセルグループCSR報告書2015]32～33ページに記載しました。

集計期間：2014年4月～2015年3月

集計方法：環境省発行の「環境会計ガイドライン2005年版」、日本化学工業協会発行の「化学企業のための環境会計ガイドライン」に準拠して算出

投資額：2014年度の環境保全に関する設備の投資実績

費用額：環境保全に関する設備の減価償却費・設備維持管理費・人件費などの実績値

環境保全対策に伴う経済効果：実質的效果のみとし、リスク回避効果やみなし効果は含まない。経済効果のエネルギー費用の削減効果については、実施した省エネルギー対策の12カ月間にわたるエネルギー費用の削減効果を計上した。

▶ 環境保全コスト

分類		主な取り組みの内容	投資額(百万円)	費用額(百万円)
生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)			3,220	4,844
内訳	公害防止コスト	大気・水質の汚染防止、有害物質の排出抑制、公害健康被害賦課金	123	2,264
	地球環境保全コスト	自家発電用循環流動層ボイラーの設置着手、蒸気再圧縮(VRC)技術の実証設備の設置、ピンチ解析経費	3,094	1,242
	資源循環コスト	産業廃棄物の適正処理・処分	3	1,338
生産・サービス活動に伴って上流または下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)		容器包装リサイクル負担、グリーン購入	3	226
管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)		環境管理人員費、環境マネジメントシステム運用・維持経費、環境教育費用、環境負荷対策費用	0	551
研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)		製品・製造工程環境負荷低減テーマでの研究開発	39	138
社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		緑化・美化などの環境改善活動、地域行事参加、会費	0	31
環境損傷に対するコスト(環境損傷コスト)		自然修復費用、環境保全に関わる損害賠償費用等、自然損傷に対応する引当金繰入および保険料	0	3
合計			3,262	5,833

項目	金額(百万円)	環境比率(%)
当該期間の設備投資額	22,450	14.5%
当該期間の研究開発費	9,638	1.4%

▶ 環境保全対策に伴う経済効果 — 実質的效果 —

項目	金額(百万円)
省エネルギーによる費用削減	929
省資源による費用削減	314
再資源化により得られた収益	436
廃棄物処理費用削減	56
合計	1,735